



比布町で、試行錯誤を重ねながら挑戦を続けるひと・事業所を紹介します。

7区在住 稲場 雄哉さん
稲葉農場



好きから始まった、トマトへの道ー4代続く稲場農場の挑戦

水菜からトマトへ 経営転換の決断

現在の主力はトマト栽培。しかし、その始まりは決して順風満帆ではありませんでした。

もともと農場では水菜などを栽培していましたが、連作障害によって思うように育たなくなり、経営の転換が必要になりました。「何を作ろうか」と考えたとき、真っ先に浮かんだのが、自分の好きな野菜だったトマトです。「調べてみると、連作障害が出にくい作物だと分かった。それならやってみよう」。好きだという気持ちが、新たな一歩を後押ししました。しかし、最初から成功したわけではありません。病気で収穫できなかった年、思うように実らず大きな損失を出した年もありました。「1年に1回しか挑戦できないし、同じ年は二度とない」。それでも毎年試行錯誤を重ね、諦めることなく育て続けたからこそ、今があります。

北海道では珍しい品種に挑む

現在は希少品種「レディーファースト」の栽培に挑戦中です。北海道ではほとんど例のない品種ですが、「面白いことをやりたかった」と導入を決意。5年近く研究を続け、「ようやく成功が見えてきた」と笑います。

また、加工品づくりにも挑戦しています。誕生したのは、無添加・無調整の濃厚トマトジュース「トロトマト」。きっかけは、市場で安く評価されてしまう規格外トマトを「もったいない」と感じたことでした。加工の話を受け、妻の美保さんが「面白そうだからやってみよう」と後押し。保存料も食塩も加えず、トマトだけをじっくり煮詰めた一品は、そのまま飲むだけでなく、パスタやミートソースにも使える万能な商品になりました。「友人から『ミートソースにしたら最高だった』と言われたのがうれしかった」と話します。



NANAPLAZA で買い求めいただけます。

好きを信じて続けた先に生まれる価値

「好きだから続けられる。好きじゃなかったら挑戦できなかった。」と話す稲場さん。

ハウスの中では、時間をこまめに管理しながら水やりを行い、一株一株を丁寧に観察します。水は足りているか、暑くないか、葉は元気か。「野菜をよく見て、面倒を見てやるのが大事。そのうち会話できるくらいになりたいですね」と笑う姿からは、トマトへの深い愛情が伝わってきました。

挑戦とは、特別なことではないのかもしれませんが、好きなことを信じ、失敗を重ねても諦めず、一歩ずつ積み重ねること。その先に、新しい価値や未来が生まれる。稲場さんの姿は、そんなことを教えてくれます。

あなたの挑戦を教えてください。

比布町で夢や目標に向かって挑戦している人、新しいことに一歩踏み出した人など、その想いや歩みを広報ぴっぷで紹介します。こんな人を応援したい。ぜひ取材してほしいという方がいましたら、ぜひ情報をお寄せください。

問 総務企画課総合政策室まち発信係